

150MHz帯特定小電力無線(ARIB STD-T99)

150MHz帯特定小電力無線は平成20年に施行され、社団法人電波産業会が「特定小電力無線局150MHz帯動物検知通報システム用無線局の無線設備 標準規格 ARIB STD-T99」として規定しています。

主な用途は、国内を移動する動物の行動及び状態に関する情報の通報またはこれに付随する制御をするための無線設備です。

野生鳥獣被害

近年、クマ、イノシシ、シカ、サルなどの野生鳥獣による農作物等への被害が全国的に広がりみせ、農作物の被害金額はここ数年で200億円を越えています。田畑・果樹園等の農業地域や住居地域に対する野生動物の接近を検知して、警戒や追い払いを行なう動物検知通報システムが全国で導入されています。



動物検知通報送信機

LT-01
150MHz

主な 特長

- ◆ 技術基準適合証明取得済み
- ◆ 伝播特性が良好な
150MHz帯の5チャンネル
- ◆ 変調はアナログのMSK変調方式
- ◆ 送信電力は10mW以下
- ◆ 通信距離は最大1km程度
- ◆ 従来からの音響ビーコンに加え、
個体識別符号(ID)を付加
- ◆ 電池寿命は約3年
- ◆ 6月から販売開始予定

サルの行動・位置調査

サルはメスを中心とした母系社会で群れをつくり、群れごとに行動します。群れの成獣メスに送信機を装着して、送信機からの電波の強度及び個体識別符号(ID)から得られる情報により、群れ全体の行動や位置を把握することができます。



動物検知通報用表示装置

受信機の音声信号から個体識別符号(ID)を復調して、ID番号、日時、時間等をSDカードにCSVデータとして記録します。記録されたデータと地図データからサルの行動を調査・解析します。



サル接近警戒システム = 猿人善快 =

調査のデータをもとに、接近警戒システムを設置します。サルが接近するとサイレンやパトライトで周囲に知らせて、さらに携帯電話やインターネット等を利用して遠隔地まで通報し、追い払いなどに活用することができます。

2008年9月に動物の検知通報システムとして、新たに使用が認められた無線設備標準規格ARIB STD-T99に準拠した送信機（テレメトリ発信器）と、その発せられる電波の受信（表示）装置、そしてその受信情報を活用した接近警戒システムをご紹介します。

野生動物を対象とした運用は、まず対象となる野生動物を捕獲し、送信機を装着して野に戻します。装着した送信機の発する電波を追うことで、野生動物の行動域調査が可能になります。まずは、相手（の行動）を知る・・・です。この場合、発信されるIDを管理することで、個体識別（管理）が可能となります。

鳥獣被害対策用としましては、検知 警報発報・Mail通知などの機能を有した、この目的専用の接近警戒システム『猿人善快』（特許第4070747号）をご用意しています。

分類あるいは個体識別が可能になることで、ノイズなど他の電波の干渉による誤作動は無くなります。

また、野生動物と人と（互い）の生活圏の線引きをすることで問題解決を図ろうとする発想から、人に対する被害防止のみならず、野生動物の保護にもつながります。

LT-01



お決まりの技適適合シール
マグネットSWに脱落機構



調査捕獲許可を得て送信機を取付
この後、放して群れに戻るのを確認
群れのマーカーになってもらいます



独立電源型野猿接近警戒システム（設置例）
＝猿人善快＝

行動域調査用途に利用される
携帯型受信機とアンテナの例



猿人善快開発製造元

〒703-8207

岡山県岡山市中区祇園433-6

有限会社青電舎

Tel 086-275-5000 Fax 086-275-8898

email seiden@po.harenet.ne.jp

http://www.seidensha-ltd.co.jp/~seiden/

●定格・仕様・外観等は改良のために予告なく変更することがあります。